

「今、私の晴雨計は！」⑥

「イタリアで考えたこと

―財政再建比較論?― 3

平山征夫

久し振りに日程のない休日の朝、窓辺に座ってゆったり新聞を読んでいた私は、ある記事を読んで思わず吹き出してしまった。それは、内閣改造で行革相に就任した河野太郎氏のお祝いの会で麻生太郎財務相が「河野さんにかけて釧路平野と解く、その心は湿原（失言）が多い」という挨拶をした処、その後挨拶に立った菅官房長官が「私は失言ではいつも福岡の太郎さんの方を心配している」と混ぜ返したという記事があったからだ。

これだけでも笑えるが私には更に吹き出すだけのいきさつがあった。私が知事のある時、総務大臣の麻生さんが「今後の地方分権についてヒアリングをする」ということで来県した。ヒアリング後の昼食の折、私はふと思いついて「麻生さん、前に自民党総裁選に出馬されたけれど、総理になろうと考えておられるのですか。私は麻生さんは尾瀬沼だからならないほうが議員生命上は良いと思います」と申し上げた。怪訝な表情で「尾瀬沼というのは？」と聞かれたので「湿原（失言）が多い・・・」と答えたところ、ニコツと笑われた。だいぶ前のことだけれど覚えていたのだろうか？

その後麻生氏は総理になり、私

の予想した通り失言し（漢字の読み違いというおまけまでして）マスコミ等を賑わした。でも同氏の失言にはどこか愛嬌があつて憎めない。そこへいくと前イタリア首相のベルルスコーニ氏の失言はかなりひどかったし、筋悪のスキヤンダルにも事欠かなかった。ギリシャ危機の発生後、政府債務の多いイタリアはタイム誌などに「最も危険な国」などと書かれたが、その背景には政府の不安定さもあつた。

昨年二月彗星のごとく現れ歴代最年少で首相になったマッテオ・レンツイ氏の評判を今回の旅行中耳にしたがすこぶる良い。国民的人気も高い。「どん底のイタリアに奇跡を起こす男」と期待されてい

る。ドイツ型の緊縮財政と異なる中道左派的減税策で経済を立て直すとしている。日本ほどではないがGDP比一三〇%の累積財政赤字を抱えるイタリアだが、若いリダーを迎えてか観光客で溢れる初秋のローマはあくまで明るかった。明確な財政再建案が打ち出せない日本と比較しながら今後の動向をウオッチしようと思った。明るい太陽とルネッサンス文化が溢れるイタリアは好きだが、パス夕に飽きた私は工事中だったこともあってテレビの泉にコインは投げ入れなかった。

（平成二十七年十一月十三日）